

## 野生植物の種まきのあれこれ

江別市 大沼 弘樹

### 本稿執筆のきっかけ

趣味や業務で、世界中の植物を二十年以上も育てていると、色々な人から園芸相談を頂く機会があります。中でも特に多いのが、タネの播き方に関する相談です。道端で拾ったタネを庭で育ててみたいとか、播いたタネが発芽しない理由を教えて欲しい、時には貴重な植物をタネから栽培して系統保存したいので方法を教えてもらえないか、とのご相談も頂きます。

相談の中でも、特にタネ播きや育苗の失敗談をよくよく伺うと、その原因の殆どが市販の草花と同じように扱った結果であることに気付きました。そこで、百種類程度の野生植物をタネから栽培してきた筆者の経験や既往研究を基に、野生植物のタネと苗作りにまつわる話を、あれこれ語ってみたいと思います。

### そのタネ、採って大丈夫？

貰ったり拾ったりして手元に来たタネはともかく、もし野山に自生している植物のタネを採ろうとするときは、自生個体群へのダメージにならないように細心の注意を払う必要があります。

私有地内や法令で保護されている植物の採種をしないのは勿論、普通種でも、その場の個体数が少ない種類のタネ採りは控えるべきでしょう。また、タネを付けている花茎ごと採ってしまうと、その個体はタネを殆ど散布できなくなってしまいます。一

年草類や、ハマタイセイ、ハマハタザオの仲間、メハジキ、ハマボッス、センブリ、アケボノソウ等の2年草、オオウバユリ、セリ科シシウド属のような一回繁殖型の植物や、僅かなタネしか生産しない春植物やメギ科、キンポウゲ科等は、特に配慮する必要があります。学術研究や系統保存などの目的で、どうしても採種しないとならない場合は、多くの個体から、ほんの少しずつ集めると、個体群へのダメージが少なく、しかもいろいろな遺伝子を持ったタネを選べます。

なお、登山道パトロールの方から「タネくらいいいだろう」と貴重な植物のタネをこっそり持って行く人がいるとの話も聞いたことがあります。特に種子繁殖に頼った生態を持つ植物にとって、タネの持ち去りは盗掘同様の大打撃となりえます。たとえばシリヒナゲシの場合、登山者によるタネの持ち去りも個体数が減った一因として疑われているようです。

趣味で育てるのが目的なら、自生地から貴重なタネを持ち去るのでなく、山野草専門店や園芸店で苗を買きましょう。その方が、丈夫に選抜された綺麗な花を、確実に長く楽しめますし、育て方の相談にも応じてくれるでしょう。

### 乾くと死んでしまうタネもある

タネを入手する前に知っておきたいのが、タネを乾かしていいかどうか、という